

1. 業務内容について

先月に引き続き市県民税・国民健康保険税・後期高齢者医療保険料・介護保険料等の減免申請の受付、確定申告に向け未申告者のリストアップ、軽自動車の登録・廃車等の処理が主な業務内容です。11月の広報に改めて減免申請のお知らせを掲載したことにより多くの申請者が来庁されることを予想していましたが、すでに申請済みの方が多く混雑はしませんでした。

2. 市街地の様子について

大船渡駅周辺には新しい飲食店が徐々に開店しています。仮設店舗ではありますが大船渡商店街もできました。

宿泊しているホテルの目の前に、「大船渡プラザホテル」が12/5にオープンしました。10月の段階では震災後そのままという状態だったのですが、急ピッチで工事が進み、あっという間のオープンとなりました。このホテルには皇族の方も宿泊に訪れたことがあるそうで、大船渡市内で一番大きい宿泊施設だそうです。

当初は、ホテル前の道路や駐車場は地盤沈下により冠水していたのですが、道路の高さを上げて舗装され、震災直後の状態が思い出せないほどきれいな道路になっています。

大船渡駅周辺の道路は、でこぼこして相変わらず危ない状態の箇所も多いですが、舗装工事が始まっているので、近いうちには夜道も安心して通行できるかと思います。

3. 生活の状況について

11月中旬を過ぎると大船渡市も冬を感じる気候になってきました。11月、12月は雪も舞う程度で積もることは希なようです。

お世話になっているホテルでは、津波で被害を受けていた厨房・食堂の工事が進み、ようやく12月から朝食のみですが提供されるようになりました。完全営業となるまでに、そう多くの時間はかからないかと思います。

ただ、今でも小さな地震が頻繁に起こっているので、一人でいる時は不安になることもあります。

4. ボランティア活動について

11/23～25日の3日間、佐久市役所野球部の有志がボランティア活動に訪れ、私も23日(祝)だけ一緒に活動を行いました。大船渡市のボランティアセンター(社

会福祉協議会)には、休日ということもあり、多くのボランティア希望者が訪れていました。個人の場合は予約など必要なく当日参加が可能です。10名ほどの団体になると事前に予約が必要となり活動内容も変わってきます。



私たちのほかに20名ほどの団体で来ていたアディダスジャパンのみなさんと一緒に活動を行いました。活動内容は津波によって溜まってしまった側溝の泥だしです。側溝の蓋をはずし、溜まった泥や石などを取り除き、また蓋を戻すという単純な作業でしたが、実際は体力勝負の相当ハードなものでした。



大船渡市の大きさから比べれば規模も小さく地道な作業でしたが、少しでも復興のお手伝いできればと、皆、力を合わせ頑張っていました。津波被害の影響は大きく、ボランティアの必要な状態はまだまだ続きそうです。

作業場は沿岸から1kmほど離れた場所でしたが、津波の際に流された漁船が住宅の目の前にありました。漁船の解体作業も始まっています。



2日目活動後に、サンマレンジャーとしても活躍している大船渡市商工観光物産課のみなさんに懇親会を開いてもらいました。商工観光物産課のみなさんには、11月に佐久市まで出張し、農業祭とともに開催された「三陸大船渡さんまつり in 佐久」で特産のさんまを振舞っていただきました。10月に放送された民放のテレビ番組にも出演し、大船渡市のさんまをアピールした方もいます。

友好都市である両市のふるさと自慢などで会話がはずみ、楽しい時間を過ごせました。